

豊かな三河湾の 自然を取り戻そう

振興環境委員会 (環境部関係)

住民の立場に立った 悪臭対策を求める

10月3日、しもおく議員は、6月議会でも取り上げた三河湾の再生について、今回9月議会の委員会でも取り上げました。

リンの濃度をあげる実験をすること

6月議会での質問の後、県が11月から来年の春まで三河地方の二か所で、下水処理のリンの濃度をあげる実験を行う、ということで、新聞報道もされました。実験の詳細について聞きました。

また、九州の有明や兵庫の播磨灘などで、リンの濃度をあげたことで、のりの色づきが増したという結果が出ていることを紹介しました。そして、「他県やすでに行っている自治体にも学び、専門機関とも連携し、本格運用に期待し、応援していきたい」と述べ、「**県は、今回本格運用も見据えて研究を行うということですが、その決意をお聞かせください。**」と県の姿勢を質しました。

他部署とともに

県は、「他県の事例も参考にしながら」そして「下水上の管理を行う建設部、アサリ等水産物への効果を調査する農林水産部とともに」と他の部署との連携をしながら「今年度の試験運転の実績をふまえて、改めて検討していく」と答えました。

三河湾再生へ各所連携して取り組みを

最後に、「ただ、これだけでは安心できません。今まで埋め立てなどで海の環境が壊されてきたのもアサリが不漁になっている原因の一つです。本気になって三河湾再生に取り組み、**将来のことも考えて豊かな自然や恵みを残すために知恵と力を尽くすべき**」と今後の一層の努力を求めました。



© Can Stock Photo

しもおく議員は、一昨年の9月議会でも新城の産業廃棄物処理施設の問題を取り上げ、県が操業を認めないことを求めました。

今回は、操業が始まってしまった上で、県の監視・指導の在り方、住民の声に応える姿勢などを質しました。

悪臭に対して多くの苦情が出ている

しもおく議員は、地域住民から「悪臭で生活が阻害されている」など360件もの苦情が寄せられ、同じ工業団地からも苦情が出ていることを紹介し、県の認識を問いました。

共産党新城市委員会の市民アンケート

共産党が行った産業廃棄物堆肥化工場についての市民アンケートには、215通の回答がありました。その中で「悪臭被害がなくなるよう強力な行政指導をお願いしたい」「施設周辺で悪臭を感じた」など切実な住民の声が寄せられています。

「市民の方が住んでよかった、これからも住み続けたいと思える街づくりのために、悪臭対策強化や、監視・指導する立場である県として指導していくべき」と追及しました。

測定データを住民に公表するべき

新城市は、一回のみ排気口での測定をしたが、他は敷地境界線でしかしておらず、さらに、測定データも公表していません。

しもおく議員は住民の不安の声に応えて、市にデータを公表するよう求めました。

県の回答は…

県は、「悪臭の苦情があることは認識している」と認めながら、「対策は市でやること」という態度で、測定もデータの数字歯科見ておらず、「規制基準地内」であるので法的に問題ない、という姿勢です。